

「がんばろう、なとり」 No.2

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.13

名取市での支援活動の2日目、そろそろこちらの地理や景色、余震にも慣れてきました。
名取市図書館の職員の皆さんや、避難所で生活されている方などともコミュニケーションを図りながら、自分たちの責務を模索する毎日ですが、現地にいさせていたでいることで、私たちにでもできることが、想像以上に多いことが分かってきました。

「支援物資の受入準備と図書館の応急処置」

14日に石狩市から、おむつ、ティッシュなどの救援物資や図書館の図書整理のための段ボールが名取市に到着の予定。

そのため、物資受け入れの確認や、図書館の一角に段ボール2,000箱を受け入れるためのスペースを作りました。

その後、避難所の子どもたちに届ける絵本や児童書等を入れたブックンボックス（石狩市の学校への貸出の愛称）の準備、



このようにガラスは何枚も割れヒビが入っています

また、館内のヒビが入って危険な窓ガラスを取り除き、ガムテープで塞ぐなどの応急処置を行いました。

予想以上に被害が大きく、応急処置が終わると、随分と布テープが目立つようになってしまいました。



絵本や児童書を入れたブックンボックス

「書庫の整理を始めました」

名取市図書館復活に向けての第一歩になる書庫の整理を始めました。特に、2階の被害が大きいため、作業スペースを確保するため、1階の倒れた書庫や散乱した資料を片づけて通路を確保しました。建物自体の傷は目立ちますが、1階の入り口付近だけをみると、元に近い状態になりました。



次に、比較的被害の少ない離れの書庫整理です。離れは2棟あり、どちらも本が床一面に散乱しています。

来週から地元のボランティアの方々と一緒に作業をすることになっているので、作業の内容や手順の打合せと準備をしました。



倒れた書架を撤去し、本、テープを整理



『むかしあそび』と『おはなし会』のプレゼントに、こどもたちが大喜び！

～ 避難所や児童センターを訪問しました ～

午後からは避難所で読み聞かせなどを行うとともに、昔あそびのおもちゃを子どもたちに手渡しました。

最初に訪れた文化会館では、子どもたちが絵本そっちのけでおもちゃに夢中になってしまったので、本は1冊にし、思い切り子どもたちとコマや糸電話でいっしょになって遊びました。元気な子どもたちに我々も癒されました。



コマで遊ぶ職員と避難所の子ども

(左) 糸電話で遊ぶ職員と避難所の子ども

(下) 地元のボランティア「おはなしキラキラの会」の読み聞かせ



その後、館腰小学校横の児童センターを訪問し、約20名の児童に地元のボランティア「おはなしキラキラの会」と一緒におはなし会を行いました。



児童センターで

「おならうた」を大合唱

「キラキラ」の皆さんは、手遊び・パネルシアター・絵本と多彩な内容で、私たち石狩組も負けじと3人が絵本を読み、最後の「おならうた」という絵本の時は、子どもたちの大合唱となる人気ぶりでした。児童センターには、明日も再訪問することになりました。

なお、「キラキラ」のメンバーお一人が、この度の震災で犠牲になられたとのこと。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

「お世話になっている方々 ～ vol.1 佐竹さん御夫婦 ～」



私たちは、名取市の増田（ますだ）地区で普段は「割烹いろはや」として営業されているお部屋を、経営者の佐竹さんご夫婦のご厚意により、宿舎として利用させていただいています。

旅行好きで面倒見の良い、とても素敵な御夫婦です。私たちは食・住の心配がないため、支援活動に専念できています。

今回は、無理にお願いをして、活動報告に登場していただきました。

編集後記

伝承あそびボランティア「おてだま」は、石狩市公民館で活動しており図書館や福祉活動などにも協力いただいているサークルです。

この度の名取市支援に賛同いただき、たくさんの遊び道具をご寄贈いただきました。お預かりしたおもちゃは、確かに子どもたちにお渡ししています。ありがとうございました。

